

入選

テーマ：医療と福祉、わたしの体験 「相手の立場で考える」と

神奈川県・横浜公立学園高等学校1年 小倉沙弥

私が小学生の頃、老人ホームへの訪問や福祉に関する授業はほとんどありませんでした。しかし、私の同級生には身体障害を持つ子が何人かいて、その中に聴覚障害のある男の子がいました。私は小二の時に初めて同じクラスになり、手話を覚え、ある程度の会話は指文字でできるようにになりました。因みに、そのような子専用の教室みたいなものはなく、全員で一緒の授業を受けていました。

ある日、聴覚障害の男の子の上履きが盗まれる事件が起きました。見つかった後も、二日後にまた無くなってしまいます。いじめと考えられたことで、容疑の目は私達クラスメートに向けられました。授業を潰しての捜索や犯人探しが行われましたが、あっさり問題は解決しました。上履きを探す度、被害者である彼によって必ず発見されました。そう、彼自ら上履きを隠し、盗まれたと騒いでいたのです。先生は彼を叱りましたが、やった理由を問いただしても彼は答えませんでした。結局先生は、やった理由は彼がみんなに構って欲しかったからだと言いました。この時私は、この動機に、ずっと疑問を抱いていました。彼はいつも沢山の男友達と楽しそうに遊び、いじめられている様子が全くなかったからです。私達は周りの人と変わらず、クラスメートとして普通に接していました。それなのに、盗んだのはいじめている私達、そして彼がこのようなことをしたのも私達の原因だと言われた時は、悲しかったです。

今の私は、その彼の行動の理由は、単純に授業が嫌いだったことだと考えています。友達と普通に話す時、手話を交えながらできません。しかし、授業では黒板や教科書ならともかく、先生の発する言葉全ては手話にされないのです。彼には理解が困難でした。人の口の形で大体

は何を言っているのか解っても、全て理解するのは至難の業です。特に授業中の先生の楽しい雑談が、彼にとって一番楽しくない時間だったと私は思います。クラス全員が、その話に聞き入り笑う中、一人その中に入り込めない孤独や悲しみを味わわれます。そう考えると、構ってほしかったというのは嘘ではないという気がします。

また、彼は言葉を理解できない、伝わらないもどかしさから、ストレスが溜まっていたのだとも思います。彼が人の口の形だけで言葉がわかり、自分の声も聞こえないのにしっかり話せるのは、相当な練習と努力をしてきたからだと後で知りました。こんなに頑張ってきたのに、言葉が読みとれなかったり伝わらなかったりすれば、歯がゆさからイライラするのも当然です。彼は突然叫んだり、怒りだしたりすることが多々ありました。私達はその度に、手話で「ダメ」と注意していましたが、その注意もまた、彼のストレスになっていったとしたらと思うと、反省の気持ちでいっぱいです。どうして相手の立場になって考えられなかったのでしょうか。小二だったからできないのも当たり前かもしれませんが、もう少し相手を思いやる気持ちがあれば良かったと後悔しています。

普通の体で普通に生活できる当り前なことが、一番幸せなことだと言われます。私は幼い頃からこのような級友がいましたが、あまり考えたことはありませんでした。当時の私にとって彼らは「障害者」でなく普通の私の「同級生」だったからです。今は身近にそのような方がいないので、この経験は本当に貴重なものだったと思わされます。

以前、駅のホームで補聴器を付けた方が一人で困っている様子だったので話しかけてみたことがありました。その方は、私のつたない指文字を理解してくださり、感謝され、とても嬉しかったのを覚えています。相手の立場になって考えることは、今社会で求められる大切なことの一部ではないかと私は強く思います。